

第3期横浜市スポーツ推進計画(答申案)について

第3期横浜市スポーツ推進計画（原案）について、令和4年3月11日に開催された第6回審議会でいただいた御意見等を踏まえて答申案を作成しました。

1 追加・修正した主な点

	意見等	修正内容
第1章 5 計画の実現に向けた連携・協働体制	○各取組はどういう人が中心に取り組むのかがわかるような表現があると良い。 (審議会)	○横浜市が各団体と連携・協働して推進する計画であることを明確化。(本文P.5) <u>横浜市は、本計画で定めた目標を達成するため、市民の皆様をはじめ、スポーツ推進委員や地域スポーツ団体、各種競技団体、公益財団法人横浜市スポーツ協会（以下「市スポーツ協会」という）、学校等の教育機関、民間企業、社団法人、財団法人、社会福祉法人、NPO法人、観光関連団体、保健医療関係団体、プロスポーツチーム等とのトップスポーツチームと連携・協働して計画の実現を目指します。</u>
第2章 1 社会情勢の変化	○国の第3期スポーツ基本計画を参照。	○第3期スポーツ基本計画に記載された3つの新たな視点を追加。(本文P.8) <u>共生社会の実現や多様性と調和への関心がより一層高まる中、令和3年度に策定された第3期スポーツ基本計画では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すため、次の3つの視点が必要になるとされています。</u> <u>①社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれず柔軟に対応するというスポーツを『つくる／はぐくむ』という視点</u> <u>②様々な立場・背景・特性を有した人・組織が『あつまり』、『ともに』活動し、『つながり』を感じながらスポーツに取り組める社会の実現を目指すという視点</u> <u>③性別、年齢、障害の有無、経済的事情、地域事情等にかかわらず、全ての人がスポーツにアクセスできるような社会の実現・気運の醸成を目指すという視点</u>

(裏面あり)

2 横浜市 のスポーツ における現 状と課題	<p>○「子どもの体力を昭和 60 年頃の水準に戻すという目標が適切か、検討が必要」とあるが、当該目標値は消えており、話が飛躍する印象がある。(審議会)</p>	<p>○子どものスポーツ活動に関する新たな指標に合わせた表現に修正。(本文 P. 33) <u>テレビゲームやスマートフォンの普及によるスクリーンタイムの増加や、新型コロナウイルス感染症の拡大による生活リズムの変化など、子どもを取り巻く環境が大きく変化しており、第 2 期計画の昭和 60 年頃の体力水準に回復させるという目標は時代にそぐわないものとなっています。また、スポーツが好きな子どもは体力が高く、総運動時間も長いことが明らかになっています。今後は、誰とでもスポーツを楽しみたい、スポーツが好きだという子どもの意識を育み、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することが必要です。</u></p>
第 3 章 1 目標	<p>○国の第 3 期スポーツ基本計画を参照。</p>	<p>○国の第 3 期スポーツ基本計画に記載された新たな視点に合わせた表現に修正。(本文 P. 36) <u>横浜市は、誰もがスポーツを楽しみ、喜びを感じながら、「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できるよう、スポーツを「つくる／はぐくむ」等の国が掲げる新たな 3 つの視点を持ちつつ、環境や状況に応じてスポーツ施策を柔軟に見直し、改善しながら取組を推進し、「スポーツ都市横浜」の実現を目指します。</u></p>
2 スポーツ推進に向けた取組	<p>○SDGs のアイコンがついているが、もう少しあてはまるものがあるのではないか。(審議会)</p>	<p>○各取組と SDGs の関係性を再精査し、アイコンを追加。(本文 P. 40～46)</p>
参考資料 1 用語集	<p>○市民が読んで理解できるよう、用語集を充実してほしい。(市民意見募集)</p>	<p>○わかりにくい用語を精査し、用語集に追加。(本文 P. 48～53)</p>

2 今後のスケジュール（予定）

- 令和 4 年 5 月 横浜市スポーツ推進審議会からの答申
 6 月 常任委員会への報告
 計画策定、公表